

専攻科福祉専攻 - LOVE -



2024年1月

●専攻科福祉専攻での学び ～全ての授業を終えて～

専攻科福祉専攻は1月下旬の「介護福祉士国家試験」での合格を目指したカリキュラムとなっており、幼児保育学科など青森中央短期大学の他学科よりも一足先に前期・後期のすべての授業を終えます。専攻科福祉専攻の学生としての生活に終わりがちにつき始め、今年度のこれまでの学びについて振り返ってみました。

たくさんの学び、出来事、思い出がありましたが、「**専攻科福祉専攻に来て良かった！！**」この言葉に尽きます。**介護福祉士**の素晴らしさに気が付くことができたのはもちろんですが、とても意外だったのは、**保育の学びに繋がった**ことです。

介護は介護者の思いではなく、利用者**本人の思いを尊重**することが大切です。しかし、全ての人が自分の思いを伝えることができるとは限らず、話せない・伝えられないからといって利用者の思いの尊重を諦める訳にはいきません。私達が心や技術を尽くして秘めた思いを感じ取る必要があります。それは**保育にも通じる点**でした。生まれたばかりの赤ちゃんや語彙の発達が未熟な幼児の思いをくみ取り、ひとりの人として真剣に向き合うことは簡単なように思えて、とても難しいことです。

私はこの1年間、午前中は保育所で働き午後は専攻科で介護を学んできました。現役の保育士として、子どもたちを導くことは保育士の役割のひとつであるが、その際に**保育士自らの思いが先行してしまうことが多かったのではないか…**と感じました。「製作はどんなものを使ってなにを作ろう？」「お遊戯会の演目はなににしよう？」**自分がしたい保育だけ**をするのではなく、もっともっと子ども達の**思いに目を向けて**寄り添うことの大切さを知ったいま、自分の中で**保育士としての世界が更に広がっていくのを感じていて、とてもワクワク**しています！

専攻科福祉専攻は介護福祉士を目指す課程ですが、保育士のスキルアップに繋がる課程でした！